

414
A 4395



臺灣處分付法律博士^上の^下説板葦

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

一号^上自カシ先ツ第二及ヒ第六ノ間^下及ホレテ管
轄ノ事ヲ論シ(第一、五面ヨリ第三十三面ニ至ル)
第四号ニ至テ再ニ箇畧ニシテ^上説^下タリシカ(第一
五十五面ヨリ第六十八面ニ至ル)此ニテ所共ニ全島
支那ノ管轄タルヲ決断シタリ然ルニ^上レ^下ゼン^ル
氏ハ此管轄ノ事ニ付キ許多ノ解明ヲ為シ同氏
ノ旨趣ハ恰モ此一事ニ在ルカ如ク^上ス^下ミス^ルノ説
ニ及シ深ク歴史及ヒ地理上ノ研究ヲ遂ケ島中
生蕃ノ地ハ全ク不羈ノ者タルヲ證明セントシ

蕃地事務局



タリ予顧フニ「レゼンドル氏ノ憑據ト
ナス昏類ニ注目セサル可ク且ツ「リスレ氏ノ其
昏類ヲ評論シ能ハスト言ヘリ
予ハ我手ニ右昏類ヲ受取リタル上ハ「リスレ氏ト
同シク歴史及ヒ地理上ノ論理ヲ把握スルヲ得ス
「レゼンドル氏ノ研究ノ精密ニノ且ツ博識ナルハ
予カ真ニ感服スル所ナリ

然レモ此相談ヲ受ケシ「頗ル重大ニノ且ツ答
ヲ為スヘキ時間甚々切迫ナレハ「レゼンドル氏ノ
研究スル所ヲ詳細ニ査調フル能ハス然レモ其
中重立チタル箇條ヲ取捨ヘタル模様ニ據レハ
「レゼンドル氏ノ憑據ト為ス歴史及ヒ地理上ノ事
柄ノ詳正ナルハ敢テ疑ヲ容レサル所ナリ故ニ予ハ
「レゼンドル氏ト同シク支那ハ「アラルモサレノ蕃地ヲ現ニ
確乎トシテ所有シタリト述フ可カラズ又支那ハ其
地ニ尙テ一ノ永久ナル植民地ヲ設ケシ事ナク又其地ニ
開化ヲ及ホシタルコトナキヲ言フ

其他支那国ニ於テ談島ヲ真ニ科シ或ハ之ヲ鎮
スル。唱フルハ不伏ニシテ已ニ之ヲ試シト。虽
ニ実功ヲ奏スルニ不_レハレジユシンドル氏モ全
熟知スル所ナリ
至当理上ヨリ論セシニハ支那国ノ依テ以テ主
張スル所十分ナラス余ハ只方今事勢ノ疑問ニ
答ルノミニシテ日本今回ノ奉支那如何ノ理ヲ
以テ處置スルヤ將夕其待スル處真ナルカ是亦
余ノ置テ論セサル所ナリ

蕃地事務局

蕃地事務局

日本政府此舉ノ為メ各國へ布達スルノ件ハ元
ヨリ至當ナリト虽モ忽メテ能ク親密切實ニ所
置シ且台湾島ニ對シ東邦諸國ニ渉ル外國裨益
ヲ妨害ナキ様其權利ヲ得ルノ方法ニ熟慮セシヲ知ラシ
ニ外國亦其所希ニ從フハ無論ニシテ且歐米ニ
州ノ日本人ヲ視ル昔日ニ勝ルヘシ
日本若他法ヲ以テ所置アラシムハビシガム氏
ヲメ尚一層ノ懇切ヲ顯スニ至ラシム可シト虽
モ台湾本口ノ景况情實ニ於テ不伏ナルハ實ニ
日本ニ對シ惡意アルニアラフハ判然タリ

江戸ニ於テ一千八百七十四年六月二十五日

ビ、ボウアソナードホンタラセコ

巴理法律大学校教師

司法省附法律師

リ

